

農林水産業を支える技術開発と普及

農業技術センター

農業技術センターでは、都市農業の持続的な発展を支援するため、農業技術の研究・開発を行っています。

また、農業現場で解決を必要とする課題を的確に把握し、農業経営の改善等に役立つ新しい技術や知識を早期に農業者へ普及指導するとともに、県民に開かれた試験研究機関を目指し、積極的に情報提供しています。

研究と開発

県民に新鮮で安全・安心な農産物を安定して提供するための技術開発や、環境と調和した農業を推進するための技術開発に取り組んでいます。

- ・ かながわらしいスマート農業の推進や多様な担い手に対応した農作業の省力化技術の開発に取り組んでいます。
- ・ 地産地消を推進し、かながわの優位性を発揮する、新規性・独自性に着目した新品種の育成に取り組んでいます。
- ・ 環境に調和した農業や安全・安心な農産物を提供するための技術開発などに取り組んでいます。



振動による害虫防除～化学農業に依存しない新たな技術の実用化～



果皮が鮮やかな緑色で豊産性のウメ新品種「翠豊」



強い甘味と適度な酸味で濃厚な味わいのイチゴ新品種「かなこまち」



スマート農業の試験栽培を行う「ICT温室」



ドローンを活用しただいこん、キャベツのセンシング技術の開発

普及と支援

農業者に対する農業技術支援を軸とした普及指導、農業の担い手の育成・確保に取り組んでいます。

- ・ 新規就農者の定着、経営発展を目指す農業者の経営改善等を支援しています。
- ・ 県民ニーズに応じた安全・安心な農産物の生産・販売の取組を支援しています。
- ・ ICT(情報通信技術)、ロボットなどの先端技術を活用したスマート農業の取組を支援しています。
- ・ 気候変動に対する適応策、有機農業などの環境保全型農業や自然災害への対応等の取組を支援しています。
- ・ 地域農業を振興するための取組を技術的に支援しています。



ナス生産者への技術指導



花き生産者への技術指導

畜産技術センター

畜産技術センターでは、県民に良質な畜産物を安定的に提供するとともに、都市と調和した畜産業を推進する試験研究を行っています。

また、研究成果及び高度技術を生産者に普及させるとともに担い手の育成・確保に関する支援などを行っています。

研究と開発

県民に高品質な畜産物を安定的に提供するとともに、都市と調和した畜産業を推進する試験研究を行っています。

- 新鮮で安全・安心な畜産物の安定供給と地産地消の推進に取り組んでいます。
 - 1 地産地消を推進するための技術開発に取り組んでいます。
 - 2 畜産経営の高度化と安定化を促進するための技術開発に取り組んでいます。
- 畜産業の有する多面的機能の発揮と循環型社会への貢献に取り組んでいます。
 - 3 未利用資源を有効活用するための技術開発に取り組んでいます。
 - 4 環境と調和する畜産を推進するための技術開発に取り組んでいます。



県民の求める畜産物の調査と販売戦略の開発



後継牛確保対策のための新技術(OPU[®])の実証



かながわ鶏の飼養管理技術の確立



生産者ニーズに合わせた多産系母豚の開発



家畜福祉の取組に向けた技術開発



効率的な生産と臭気問題に対応可能な畜舎の実証研究

※ 超音波画像をみながら卵巣に針を刺して卵子を採取する方法、経膈採卵(OPUは、Ovum Pick-Upの略)

普及と支援

畜産農家に対する畜産技術支援を軸とした高度技術の普及指導、畜産の担い手の育成・確保を行っています。

- 畜産の担い手の育成や経営発展を目指す畜産経営を支援しています。
- 県民ニーズに応じた高品質で安全・安心な畜産物の生産・販売の取組を支援しています。
- 畜産技術の高度化により、生産性や収益性の向上に取り組む生産者を支援しています。
- 畜産環境対策の取組を支援しています。
- 畜産への理解醸成や販売促進活動を推進する生産者の取組を支援しています。



新規就農者の飼育管理技術の支援



食肉脂肪測定装置による肉質評価



飼料用稲の生育調査



小学校での食育授業

水産技術センター

水産技術センターでは、「きれいな海」を守り、「新鮮な魚」を提供する水産業の振興を目的として、資源管理型漁業や栽培漁業の推進、水産物の利用加工、海況・漁況情報の活用、水域環境の保全などに関する研究を行っています。

また、漁業者に対して漁業技術及び経営に関する普及・指導業務や担い手の育成・確保に関する支援を行っています。

研究と開発

県民に新鮮で安全・安心な水産物を安定して提供するための技術開発に取り組んでいます。

- ・漁業の再生を目指して、「水域環境の保全と再生」に取り組んでいます。
- ・資源を増やすことに加え、持続させる管理と利用の手法を目指した「水産資源の持続的利用の促進」に取り組んでいます。
- ・最先端の科学技術の活用や水産物の特性や強みをいかした「県民への魅力的な水産物の供給」に取り組んでいます。



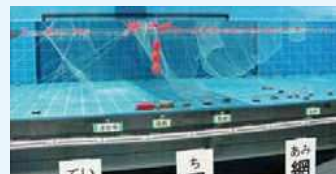
漁業調査指導船江の島丸



海洋観測



キャベツウニの養殖技術開発



回流水槽による漁具模型実験



アユ卵の孵化筒



トラフグの放流種苗



ドローンでの定置網状況調査



溪流環境調査

普及と支援

漁業者に対する技術及び知識に関する普及指導や担い手の育成確保の支援を行っています。

- ・沿岸漁業の生産性の向上、漁業経営の近代化及び漁業生産技術の改良を図るため、沿岸漁業等の就業者に技術及び知識に関する普及指導を行い、優れた経営感覚をもつ漁業者の育成を支援しています。



漁業者によるハマグリ調査



体験漁業

自然環境保全センター

自然環境保全センターでは、「多様で豊かな自然環境の保全・再生と活用」を長期目標とし、主に丹沢大山自然再生計画、かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画、神奈川県花粉発生源対策10か年計画等の取組に関連した試験研究・技術開発を推進しています。

ブナ林の再生にかかる研究開発

水源林の中でも特に貴重な自然生態系である丹沢のブナ林について、ブナ林衰退機構や対策技術に関する研究成果などをとりまとめた「丹沢ブナ林再生指針」を踏まえ、ブナ林再生事業の検証及びブナ林衰退対策にかかる技術開発に取り組んでいます。



大規模ギャップの森林再生調査



大気・気象モニタリング調査



ブナハバチ被害防除試験

水源林の機能評価にかかるモニタリング調査

「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」に基づき、水源施策の効果をわかりやすく説明するため、また水源施策を柔軟に推進するために、水源かん養機能評価及び生物多様性機能評価にかかるモニタリング調査に取り組んでいます。



水源かん養機能調査



生物多様性機能調査(植物)



生物多様性機能調査(動物)

スギ・ヒノキの人工林管理技術の改良

社会問題になっているスギ・ヒノキ花粉症に対し、これまでの研究成果を基に、無花粉ヒノキの苗木生産実用化及び無花粉スギの苗木生産効率化に取り組んでいます。また、雄花着花量調査に基づく花粉飛散量予測も実施しています。(全国初の無花粉ヒノキ「丹沢 森のミライ(愛称)」令和3年春初出荷・令和4年3月15日品種登録)



無花粉ヒノキの直さし試験



ヒノキの人工交配



無花粉スギ閉鎖系採種園